

## JOMF 派遣医師便り (2019. 6)

### ◆シンガポール◆

#### サル痘封じ込めに成功

#### ～新設の National Center for Infectious Diseases が貢献～

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

先月、シンガポールでサル痘の感染者が見付かったことを報告しました。当初、患者は20歳代と報じられましたが、その後の報告によれば38歳でした。国籍は既報の通り、ナイジェリアです。ナイジェリアからシンガポールに4月28日に単身到着後、4月30日に発症し、5月7日にTang Tock Seng病院に救急搬送されました。同日、国立感染症センターに移送され、翌8日にサル痘に罹患していることが証明されました。その後、陰圧室で管理され、幸い、病状は回復し、24日に退院となり、同日、母国に帰国しました。

濃厚な接触があったとされる接触者（既報では23人でしたが、最終報告では22人）は、天然痘ワクチン（サル痘と人の天然痘のウイルスは同じではないが類縁関係にある）を接種されるとともに潜伏期（5～21日）を考慮し、21日間隔離され、最後の濃厚接触者の隔離が5月28日で終了しました。これらの濃厚接触者から2次感染者は認められませんでした。また、濃厚ではないものの、接触があったと考えられる8人の人たちは、最終接触から21日間、1日に2回当局から健康状態のチェック（電話）を受けていましたが、このチェックも5月30日に終了し、こちらのグループからも2次感染者は出ませんでした。2次感染者が1人もでなかったことから、今回の感染は封じ込めに成功したと考えられます。迅速な診断、接触者検診、接触者の隔離という施策が効を奏したといえると思います。

今回、患者さんはNCID(National Center for Infectious Diseases)に入院しました。この施設は、新設ですが、実態はCDC(Communicable Disease Center)という感染症専門施設を発展的に再構築したものと言えます。（建設費は900万シンガポールドル(約720億円)）

CDCは昨年12月に閉鎖され、その後をこのNCIDが引き継ぎ、この5月に全面的に活動を開始したところでした。330床の入院ベッドを備え、HLIU(High Level Isolation Unit)という高度な隔離施設をシンガポールで初めて備えました。そこではエボラウイルス病やマールブルグ熱、天然痘や炭疽などの患者さんも受け入れることができます。

まさに、今回のケースはこの施設の有用性を全面的活動開始と同時に示すことになりました。

更に、この施設は公衆衛生、研究、教育機関という役割も担っており、HIV感染症や結核の国家プログラムも主導しています。今後の更なる活動が期待されます。

